

学生論文特集の発行にあたって



学生論文特集編集委員会

委員長 山口 修

今回で4回目となる学生論文特集は、論文執筆経験が豊富でない学生の研究を活性化し、母国語による論文を発表する場を提供することを目的としている。次世代を担う若手研究者による研究の広がりを世の中に示すことはもちろん、若手研究者同士の分野横断的な新しい研究交流、そして研究活性化の契機となることを期待し、ISS和文論文誌編集委員会が、全員で編集に当たるという企画である。

今回の投稿数は、前々回の108編、前回の50編に対して、39編の投稿と減少した。これは、広報が十分ではなかったことが反省点の一つであるが、同時期にほかの特集とのメ切が重なり特定分野の論文が集められていなかったことも理由として挙げられる。

回を重ねたことで、前回、前々回に残念ながら不採録となった論文が、本特集に再度チャレンジされており、今回採録となったケースが複数編あるのも嬉しい限りである。残念ながら不採録となった論文については、再度リベンジされることを期待している。通常号への再投稿は極めて多く、晴れて採録となっている論文を見かけると学生論文特集でのコメントが生かされていることを実感する。査読者にも学生論文特集の意義が浸透してきたこともあってか、「学生論文特集なので、評価を甘くした」という誤認識は、非常に少なくなったと思われる（採録基準は通常号と同じである）。査読委員からは、いずれの論文に対しても詳細な指摘を頂いており、査読委員の皆様へ感謝すべき点

である。

厳正な審査の結果、今回の採択率は41%と、従来と同程度で、全部で16編を採録とした。また、採録された論文の中で、新規性、有効性、信頼性、了解性の少なくとも一つの項目において特に秀逸で、学生としてよく健闘したと称賛に値する論文を秀逸論文として本特集編集委員会が認定を行っており、今回は2編の論文を秀逸論文とした。「辺容量付き電力需給ネットワーク」については信頼性と了解性が優れているとの評価、また「PESQと室内音響指標を用いた雑音・残響指標NRSR-PDnに基づく雑音・残響下音声認識性能の予測」については、従来研究と比較して優れた結果を出しているという点で有効性が評価された。

最後に本特集を発行するにあたり、論文を御投稿頂いた皆様、タイトなスケジュールの中、丁寧な査読を頂いた査読委員の皆様、企画編集に尽力頂いた特集編集幹事、編集委員の皆様、ならびにサポート頂いた事務局の皆様には心より感謝申し上げます。今後も継続的に本特集が企画され、若手の支援・教育の場として機能することを期待している。

やまぐち おきむ
山口 修（正員：シニア会員） 1992岡山大・情報卒。1994同大大学院工学研究科了。同年（株）東芝入社。現在、同社研究開発センターインタラクティブラボラトリー主任研究員。コンピュータビジョン・顔画像認識の研究に従事。1996情報処理学会全国大会優秀賞、2002本会論文賞、2003情報処理学会山下記念研究賞受賞。IEEE、情報処理学会会員。

学生論文特集編集委員会

委員	長 幹 事 員	山和青市岡神北栗白玉平松守	口田西谷野 親 敦浩敏正 純 行俊	修宗亨郎三弘人聡子徹豊宏夫	井秋岩岡河北小鈴中福三吉	口岡元村田原林木尾田浦田	和明浩寛佳鉄 伸 洋幸尚	久香太之樹朗匠崇恵治也史	安荒衛角川木鮫蘭中堀光吉	藤牧藤川西村島田村田原本	英由樹 英将裕隆昭和光太郎政弘潤一郎	石岡籠吉久保篠田原堀森	井田嶋瀬田崎中口山	雅隆岳謙 隆正 貴大	博三彦二彰宏行亮史毅
----	------------------	---------------	----------------------	---------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	-----------------------	-------------	-----------	------------	------------